



かっぱのフレディ

3月19日

Sudden Fiction Project

高階 經啓
hirotakashina

3月19日のおはなし「かっぱのフレディ」

かっぱのフレディを知ってるかい？

とってもゆかいなやつなのさ。

(BBC1のコメディ番組より、ナレーション冒頭部分)

* * *

かっぱのフレディは、桐生郡蒲生村の甚平が沼に生まれました。その沼はかっぱの生息地として世界的に知られた沼で、常時たくさんのかっぱ研究家が集まっていた。フレディが生まれた年は、スコットランドのヘルヨリフスンという村からヨアン・リュエリンソンという魔法生物研究学者が訪れていて、生まれたばかりの赤ちゃんかっぱにフレディという名前をつけました。

みなさんもよくご存じのことと思いますが、かっぱというのはああ見えてなかなか義理堅いところがあって、海外からわざわざ来てくれた高名な（とかっぱたちは思った）学者さんがつけてくれた名前は大事にしくちゃならんと考えました。まわりのかっぱはみんな、沼太郎だの、どろん子だの、がさぶろうだの、みどろだのといった名前ばかりの中に、ひとりだけフレディはおかしいだろうと、誰も内心思ったのですが。そういうわけで、決まったものは仕方ありません。みんなはその赤ちゃんかっぱをフレディと呼ぶことにしました。

フレディはすくすく成長して元気で活発で、親がかっぱのいうこともよく聞く素直なかわいらしい子どものかっぱになりました。ただ問題はフレディが女の子だということでした。甚平が沼のかっぱたちは誰も知らなかったのですが、フレディが十歳になったとき、フレディというのは男の子の名前だということが、顔なじみの日本人かっぱ研究家に知らされて、みんなは大層困惑しました。

フレディは同じ年くらいのかっぱの子どもたちに「やーいやーい、フレディつったら男の名前、ちんぽはないけど振れ、振れでいー」などとかからかわれる始末。本人の責任ではないのに、こんな言われようをするのは気の毒と言うほかありません。子どもというのは残酷なものなのです。どうしてまたあの異国から来た高名な（とかっぱたちは思っていた）学者さんは、そんな名前をつけたんだろうか、大人のかっぱたちは頭の皿を寄せ合ってはそんな話をしました。

誰も知りませんでした。実はヨアン・リュエリンソンは高名な学者でも何でもなく、地元のヘルヨリフスン村でももてあまし気味の飲んだくれでした。魔法生物研究なんてちっとも本気ではなく、かっぱにオスメスの区別があることを思いつきもしないようにつけ者だったのです。けれどもそんなこととは露知らず、ある日、かっぱのフレディは思い立って、名付け親のヨアンに会いに行くことにしました。どのような思いでこの名前をつけたのかを直接聞き出そうと思ったのです。

かっぱが海外旅行をするのは前代未聞のできごとでしたが、幸いヴァージン・アトランティックのリチャード・ブランソンはかっぱの海外渡航に理解を示してくれ、特別料金でイギリスまで連れて行ってくれたばかりでなく、現地での移動のために3人のスタッフをつけてくれました。なぜならブランソンは世界中の妖精やこびとと交流していて、異界の生物へのリスペクトの念を忘れずに持っていたからです。

しかし、ヘルヨリフスン村に着いたかっぱのフレディが見たのは、どうしようもない酔っぱらいの姿でした。べろんべろんに酔っ払った名付け親のヨアンは、あろうことか美しく成長した名付け子をレイプしようとしたのですが、ブランソンの3人のスタッフの助けもあり、フレディは無事に身を守ることができました。さらにこのときフレディが使った〈甲羅固め〉というわざにより、以来ヨアンは酒が飲めない身体となり、更正への一步を踏み出したのです。ブランソン率いる魔法生物学会の手厚いサポートもあり、後にヨアンは本当に、高名な魔法生物学者になるのですが、それはまた別なお話です。

名付け親の姿を見て、自分の名前が適当に付けられたことを悟ったフレディは、そのことをむしろ前向きにとらえることにし、ケンブリッジ大学に籍を置いてセクシュアリティとケルト文化に関する論文を次々に発表しました。同時に大学のコメディグループ「ケンブリッジ・フットライツ・レビュー」に参加し、コメディエンヌとしての才能を開花させ、BBC1であの有名なコメディ番組『かっぱのフレディ』を3年間にわたり成功させることになるのは、みなさんもよくご存知の通り。

それでは次回は、かっぱのフレディがダニエルというケンタウロスと知り合ってからのお話をすることにいたしましょう。

(「かっぱのフレディ」 ordered by 又一-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

感謝の言葉と、お願い&お誘い

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

かっぱのフレディ

<http://p.booklog.jp/book/46340>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/46340>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/46340>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.